



平成 29 年 2 月 14 日

各 位

株 式 会 社 フ ィ ス コ  
 代 表 取 締 役 社 長 狩 野 仁 志  
 ( J A S D A Q ・ コ ー ド 3 8 0 7 )  
 問 い 合 わ せ 先 :  
 取 締 役 管 理 本 部 長 松 崎 祐 之  
 電 話 番 号 0 3 ( 5 7 7 4 ) 2 4 4 0 ( 代 表 )

通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 28 年 2 月 16 日に公表いたしました平成 28 年 12 月期(平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)の通期の連結業績予想および個別業績予想につきまして、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 28 年 12 月期通期連結業績予想の数値の修正(平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)  
 (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	15,480	411	353	△175	円 銭 △4.82
今回修正予想 (B)	14,004	△778	△1,003	△1,172	△31.42
増減額 (B - A)	△1,476	△1,189	△1,356	△997	
増減率 (%)	△9.5	-	-	-	
(ご参考) 前期実績 (平成 27 年 12 月期)	10,206	△554	△952	△143	△3.94

2. 平成 28 年 12 月期通期個別業績予想の数値の修正(平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日)  
 (単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	544	△35	△41	円 銭 △1.14
今回修正予想 (B)	607	9	△91	△2.44
増減額 (B - A)	62	45	△50	
増減率 (%)	11.6	-	-	
(ご参考) 前期実績 (平成 27 年 12 月期)	605	42	△103	△2.85

### 3. 修正の理由

#### (連結業績予想)

売上高につきましては、デバイス事業において平成 28 年 4 月 28 日付の株式会社 SJI（平成 29 年 2 月に「株式会社カイカ」に商号変更、以下「カイカ」といいます。）株式の特設注意市場銘柄の指定継続の影響により、新規案件の受注獲得が思うように伸びず同社の予算を下回り、株式会社ネクス（以下「ネクス」といいます。）においては一部製品の受注が予想を下回る見込みとなりました。

また、広告代理業において、顧客による広告計画の大幅な見直しの影響を受け、レギュラー出稿のあった雑誌広告や紙メディア・ツールを中心とする大口案件の中止により、予想を下回る見込みとなりました。

加えて、情報サービス事業の株式会社フィスコ I R において、企業調査レポートが好調に推移しているものの、価格競争の高まりにより株主通信などの受注が伸び悩み、予想を下回る見込みとなりました。

営業利益および経常利益につきましては、デバイス事業において、カイカで上述の売上高の伸び悩みが影響し、加えて、ネクスにおいて、前期より一部顧客の間で延伸になっている受託開発案件の製品仕掛について保守的に見直しをおこない、棚卸資産を減じた事により計画外で売上原価が 329 百万円増加する見込みとなりました。

コンサルティング事業の株式会社バーサタイルにおいては、売上は予想より増加しているものの、商標権の償却により販売費及び一般管理費が予想より増加し、営業利益および経常利益は予想を下回る見込みとなりました。

また、広告代理業においても、上述の売上高の伸び悩みが影響し、予想を下回る見込みとなりました。

これらに加え、デバイス事業の複数子会社ののれん償却額が、取得時に見込んだ額を上回ったことにともない、予想を上回る額が計上される見込みとなりました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、株式会社チチカカにおいて、当社グループ加入前の平成 28 年 3 月から 7 ヶ月間にわたり 26 店舗を閉店するなど、不採算店舗の閉店や人員体制の見直しなどによる構造改革を進めてきた結果、平成 28 年 10 月には単月営業黒字に転換いたしました。しかし、グループ入り後、2016 -2017 年秋冬の商品の販売見通しや各店舗の採算性を再度厳格に評価し、不採算となりうる可能性の高い店舗を新たに 18 店舗抽出しました。当該店舗につきましては、再建に向け分析検証ならびに体制再構築を進めておりますが、現段階では再建に向けての不確実性がまだ高いことから、期中に退店決定した店舗も含め合わせて 320 百万円の減損損失として計上する見込みとなりました。

また、当社の連結子会社である株式会社ネクスグループ（以下「ネクスグループ」といいます。）のデバイス事業に対するのれんの減損損失を計上するため、特別損失が計画外の増加をする見込みとなりました。

このため、カイカにおける子会社株式の譲渡による関係会社株式売却益 182 百万円を特別利益として計上するものの、予想を下回る見込みとなりました。

#### (個別業績予想)

売上高および経常利益につきましては、当社は、EC サイト「クラブフィスコ」による投資情報コンテンツ（「マーケット展望」、「IPO ナビ」、「FX デイリー&ウィークリーストラテジー」、「フィスコ日本株分析」等）の販売、「フィスコ マーケット マスターズ」、株価予測サービス「フィスコ AI」による投資助言事業などを展開しておりますが、マーケットの回復を受けて、予想を上回る見込みとなりました。

当期純利益につきましては、ネクスグループの株式の一部を売却したことにより特別利益と

して関係会社株式売却益 122 百万円を計上するものの、当社の連結子会社である株式会社バーサタイルの株式および FISCO International Limited の株式を、ネクスグループへ譲渡したことにより特別損失として関係会社株式売却損 222 百万円を計上するため、予想を下回る見込みとなりました。

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在に入手可能な資料を基に作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

以 上